

スポーツ測定法

履修年度	2024
担当教員	宮城 修
連番	
曜日・時限・開講期	金曜日 3時限 後期
期間	後期
授業形態	講義
分野系列	<選択科目(専門)>
学年	2年生
単位	2
開講キャンパス	東松山
科目ナンバリング	182SPSC0821 J
科目とDPの関連	DP1-1★3/DP2-1★2/DP3-1★2
備考	
最終更新日	2024/1/8 10:55

授業の概要	運動やスポーツの指導者として、あるいは一人の競技者として各体力要素の測定方法や得られたデータの見方について、映像や実習を交えて解説していく。	
授業の到達目標	(1) 形態の測定について解説できるようになる。 (2) 持久系と筋系の測定について解説できるようになる。 (3) コーディネーションについて解説できるようになる。	
DP一覧表		
授業の方式	対面方式	
授業の方法①	こちらで準備した授業資料を配布して、その資料に沿って講義形式を進めていく。 テーマによってはグループディスカッションを行い、その結果をプレゼンテーションする機会を設ける。	
授業の方法②	<b>特徴</b>	<b>該当有無</b>
	A：企業や自治体と連携した課題解決型学習（PBL）	
	B：討議（ディスカッション、ディベート等）	あり
	C：グループワーク	あり
	D：プレゼンテーション	
	E：実習、フィールドワーク	あり
	F：双方向授業（ICT活用あり：クリッカー、DBmanaba等）	あり
	G：双方向授業（ICT活用なし：対話型、リアクションペーパー等）	
	H：授業前に課題等で事前学習し、授業では復習や応用を行う（反転授業）	
	I：外国語のみで行われる授業	
	J：インターネットを通じて無償で入手可能な授業教材等を利用した授業	
	K：統一試験結果に基づくクラス編成による授業	
	L：少人数クラス編成による授業	
M：国内の特定の地域に対する理解を深めることを目的とした授業		

	授業内容	担当教員
第1回	ガイダンス（スポーツ測定法の目的と授業内容の概説）	宮城修
	<b>準備学修（予習・復習等）</b>	<b>必要な時間</b>
	シラバスの内容に目を通して、ガイダンスでの内容を再確認する。	4時間
第2回	<b>授業内容</b>	<b>担当教員</b>
	形態の測定①（骨、身体計測点、筋肉）	宮城修
	<b>準備学修（予習・復習等）</b>	<b>必要な時間</b>
	前回授業配布の資料に目を通しておくこと	4時間
第3回	<b>授業内容</b>	<b>担当教員</b>
	形態の測定②（長育、幅育、周育、皮下脂肪厚）	宮城修
	<b>準備学修（予習・復習等）</b>	<b>必要な時間</b>
	前回授業配布の資料に目を通しておくこと	4時間
第4回	<b>授業内容</b>	<b>担当教員</b>
	肥満の判定基準	宮城修
	<b>準備学修（予習・復習等）</b>	<b>必要な時間</b>
	前回授業配布の資料に目を通しておくこと	4時間
	<b>授業内容</b>	<b>担当教員</b>

授業 計画	第5回	身体組成の測定評価	宮城修
		準備学修（予習・復習等）	必要な時間
		前回授業配布の資料に目を通しておくこと	4時間
	第6回	授業内容	担当教員
		身体組成を変化させるためのトレーニング方法	宮城修
		準備学修（予習・復習等）	必要な時間
	第7回	前回授業配布の資料に目を通しておくこと	4時間
		授業内容	担当教員
		アライメントの測定評価	宮城修
	第8回	準備学修（予習・復習等）	必要な時間
		形態からアライメントの測定評価まで（第1回～第7回）の振り返り	宮城修
		前回授業配布の資料に目を通しておくこと	4時間
	第9回	授業内容	担当教員
		柔軟性（関節可動域）の測定評価	宮城修
		準備学修（予習・復習等）	必要な時間
第10回	前回授業配布の資料に目を通しておくこと	4時間	
	授業内容	担当教員	
	血中乳酸濃度を用いた測定評価	宮城修	
第11回	準備学修（予習・復習等）	必要な時間	
	筋力とパワーの測定評価	宮城修	
	前回授業配布の資料に目を通しておくこと	4時間	
第12回	授業内容	担当教員	
	最大酸素摂取量の測定評価	宮城修	
	準備学修（予習・復習等）	必要な時間	
第13回	前回授業配布の資料に目を通しておくこと	4時間	
	授業内容	担当教員	
	心拍数を用いた測定評価	宮城修	
第14回	準備学修（予習・復習等）	必要な時間	
	GPSによる動きの評価	宮城修	
	前回授業配布の資料に目を通しておくこと	4時間	
第15回	授業内容	担当教員	
	柔軟性からGPSによる動きの測定評価まで（第9回～第14回）の振り返り	宮城修	
	準備学修（予習・復習等）	必要な時間	
		前回授業配布の資料に目を通しておくこと	4時間

フィードバックの方法		レポートについてのフィードバックは個々の学生に対しては行いませんが、良いレポートに関しては学生名を出さずに評価を全体にお伝えすることはあります。
教科書		毎時間レジユメを配布する。
参考文献など		新聞、テレビ、インターネットなどのニュースが参考文献に値する。
成績評 価の方 法・基準	評価方法	割合(%)
	筆記試験	80
	実技評価	0
	レポート評価	20
	平常点評価	0
その他		0
履修上の注意		特になし

連絡先・連絡方法など	授業終了後声をかけていただくか、メールなどにてご連絡ください。(tmura@ic.daito.ac.jp)
実務経験①	あり
実務経験②	なお、担当者は実務経験者として、コンピュータプログラミング、ハードウェア保守、情報ネットワーク構築、統計調査、経済分析に従事したことがあり、その経験を生かした授業を行っていく。
その他	試験後のレポート提出は一切認めません。追試を受験する資格がある学生は、追試を受験してください。